

I. 銚子市の現状

本章では、さまざまな統計データ（銚子市統計書等）や地域関係者へのヒアリング調査から、銚子市の特徴や問題を整理する。さらに、関東圏での銚子市に対するイメージ調査を行い、銚子市の現状を把握する。

1. 銚子市の現状

(1) 概要

銚子市は、関東平野の最東端に位置し、北は利根川、東と南は太平洋に面している。江戸時代に利根川水運が開発され、醤油醸造業と漁業で発展、千葉県で第2番目に市制施行した地方都市である。

周囲は旭市や東庄町、茨城県神栖市に隣接し、国際空港のある成田市、観光地である香取市（佐原）、コンビナートや港のある茨城県鹿嶋市は30km~40km圏内となっている。

東京から、JR（特急）で2時間弱、高速バスで2時間強の位置にあり、海に囲まれた地形から風力発電用風車が34基設置されている。

日本有数の水揚げ量を誇る銚子漁港がある。また、農業についても、周囲が海に囲まれた海洋性気候の利点（夏涼しく冬暖かい）を生かし、キャベツ・ダイコンなどの露地野菜を中心に栽培しており、千葉県内有数の農業産出地である。

また、温暖な気候と犬吠埼灯台や銚子漁港により観光地としての歴史も古く、観光も重要な産業となっている。

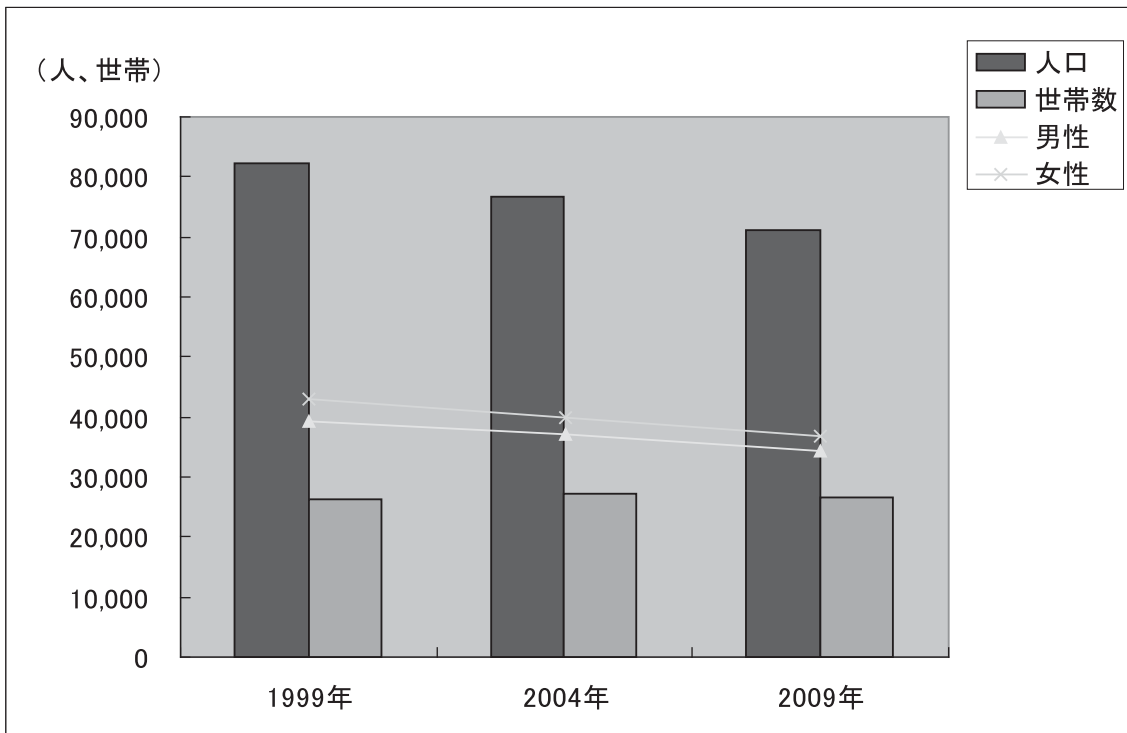


(2) 人口・世帯

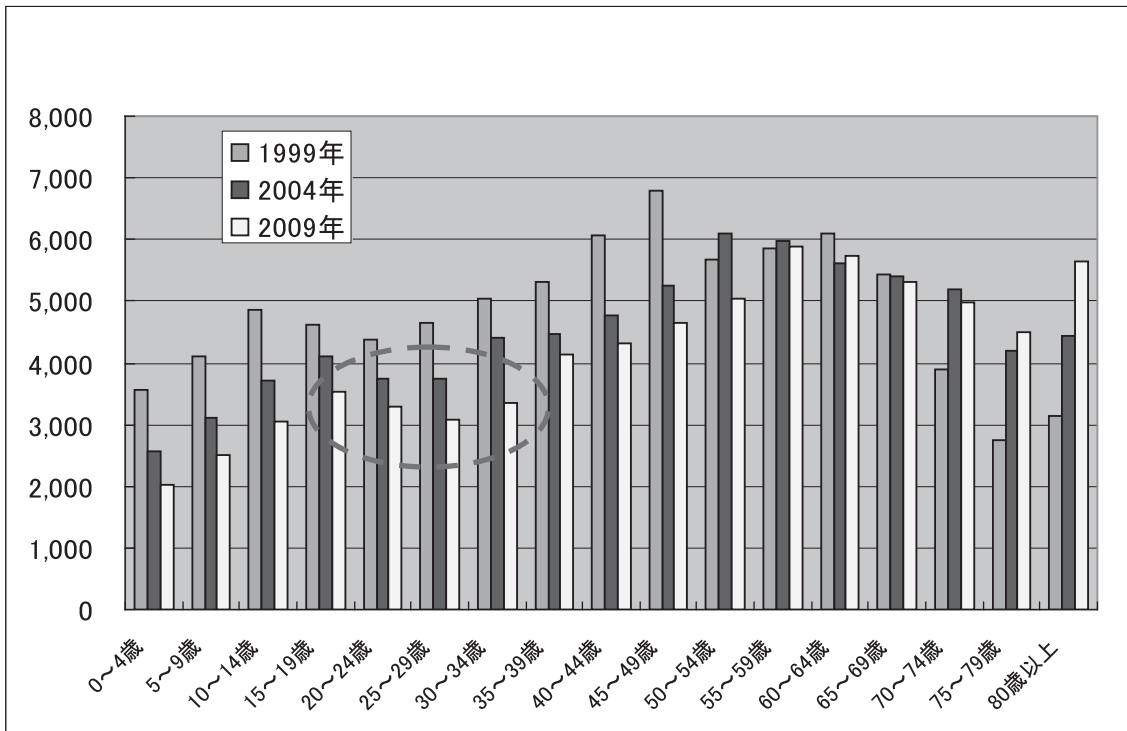
銚子市の人口はここ10年間減少を続けており、10年10月時点で70,225人と年平均1,000人以上の減少となっている。世帯数は核家族化を反映し、増加傾向にあったが、10年には26,948世帯と04年の27,089世帯からやや減少している。

人口の減少とともに高齢化も進んでおり、09年時点の老齢人口比率（65歳以上、20,447人）は28.8%で、99年からの10年間で10ポイント以上も増加している。また、生産年齢人口（15~64歳、42,982人）の割合は60.5%で、この10年間で約6ポイント減少、年少人口（0~14歳、7,587人）の割合は10.7%で、この10年間で約5ポイント減少している。

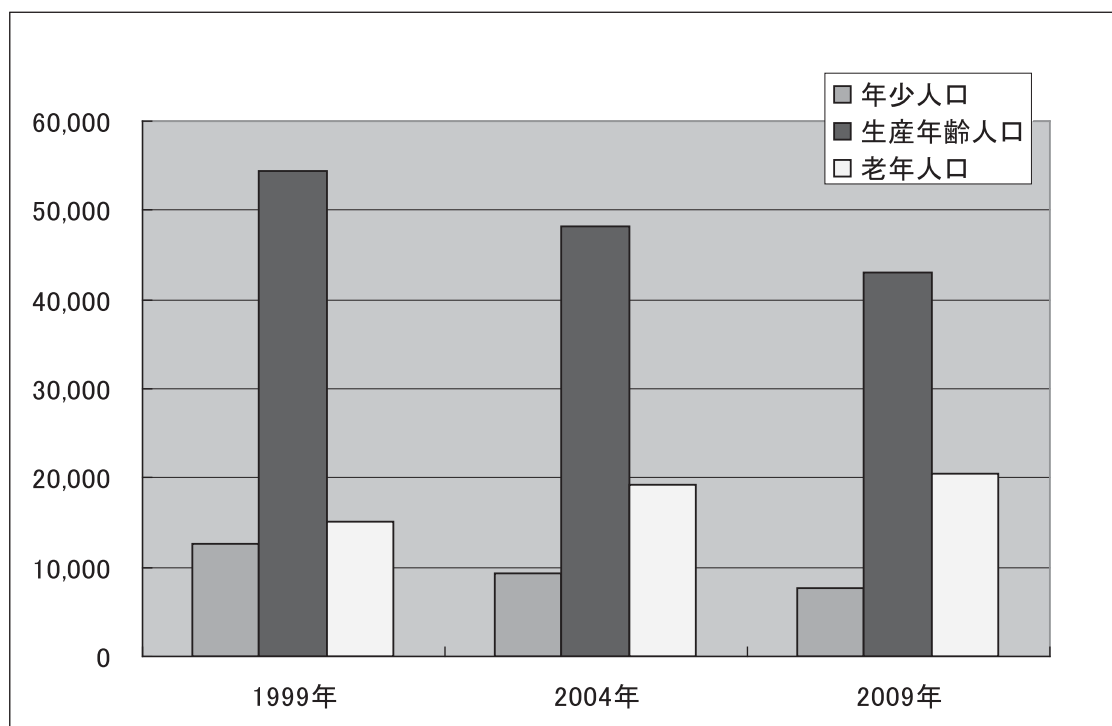
(図表 I - 1) 銚子市の人口と世帯数の推移



(図表 I - 2) 銚子市の年齢別人口の推移



(図表 I - 3) 銚子市の年齢層別の人口推移



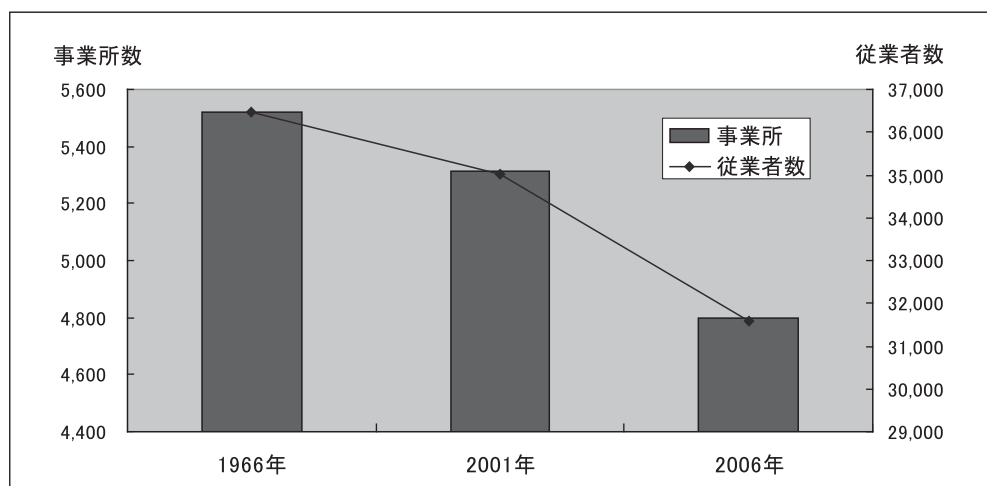
市内には、千葉科学大学が立地しているものの、10歳代後半～20歳代前半の人口増加には結びついていない。

さらに30歳代前半での流出も多いことから、銚子市内就業者が住宅購入時に、地価の高い銚子市ではなく、比較的価格が低く、生活環境も整備されている隣接の旭市や神栖市を選択している可能性がある。

(3) 事業所・従業者数

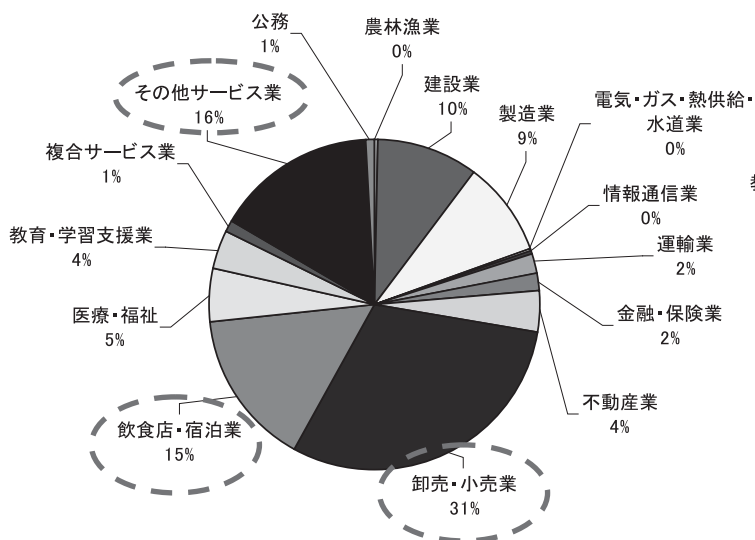
06年の銚子市の事業所数は4,798所、従業者数は31,569人となっており、5年前の01年と比較して10%程度減少している。

(図表 I - 4) 銚子市の事業所と従業者数

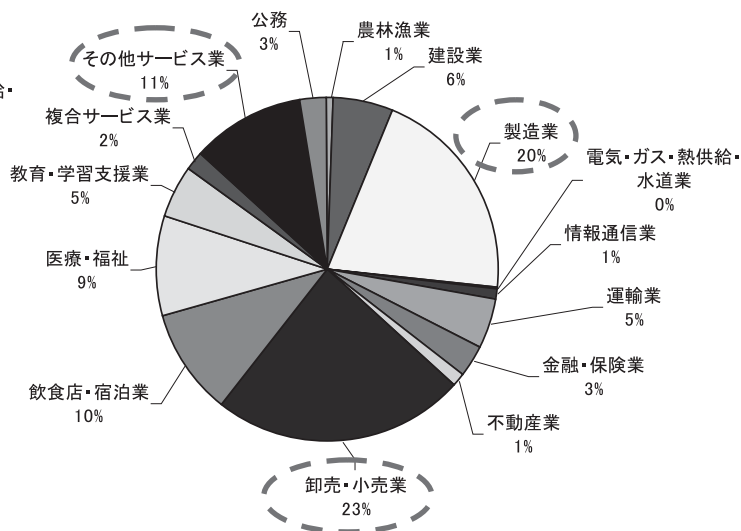


事業所数は卸売・小売業、サービス業、飲食・宿泊業、建設業、製造業の順で多く、
 従業者数は卸売・小売業、製造業、サービス業、飲食・宿泊業、医療・福祉、建設業
 の順に多い。

(図表 I - 5) 銚子市の事業所の
 産業別構成比数 (06年)



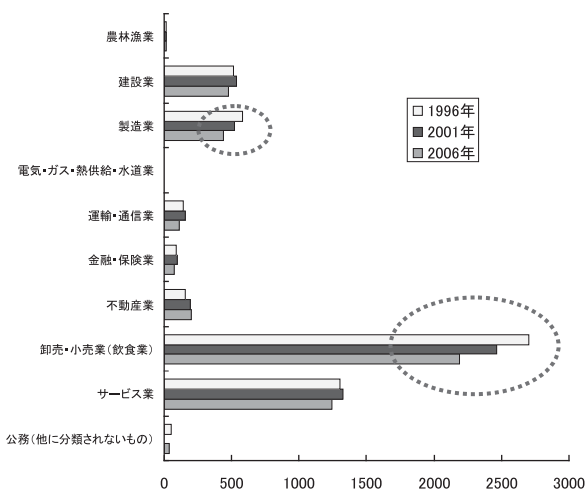
(図表 I - 6) 銚子市の従業者数の
 産業別構成比数 (06年)



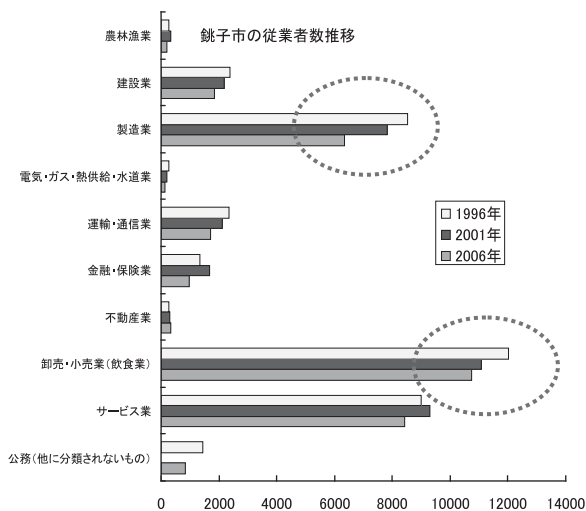
飲食・宿泊業はもちろん、サービス業や小売業にも観光客を主要な顧客としている
 事業者が一定数存在すると思われ、銚子市にとって観光客による経済効果をこれまで
 以上に享受できれば、事業機会の拡大、雇用機会の増加、人口増加など一定の波及効
 果があると思われる。

なお、事業所数、従業者数ともに卸売・小売業（飲食業）と製造業の減少が目立っ
 ている。

(図表 I - 7) 銚子市の事業所数推移



(図表 I - 8) 銚子市の従業者数推移

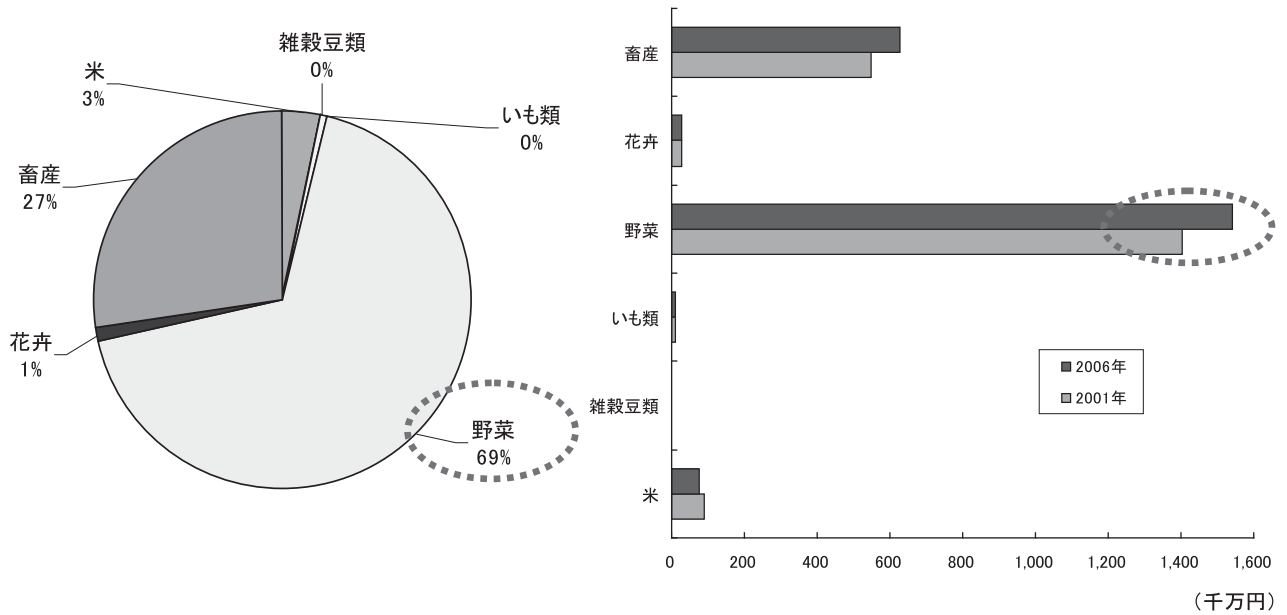


(4) 農業

銚子市では 1,000 を超える販売農家が存在しており、約半数は専業で行っているなど、農業は主力産業のひとつである。

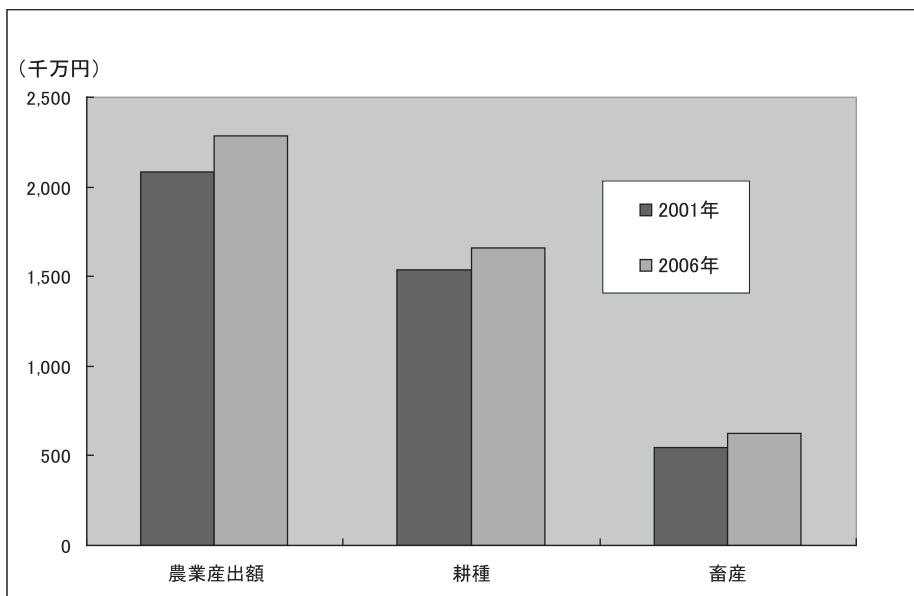
農業産出額は近年でも増加傾向にあり、06 年は約 230 億円となっている。内訳をみると、野菜が圧倒的に多く、伸びも堅調である。

(図表 I - 9) 農業産出額構成比 (06 年) (図表 I - 10) 農業産出額推移①



銚子市の野菜で主力なのは、キャベツ（春キャベツは生産量日本一）、ダイコン、メロンのほか、トウモロコシがある。また米や鶏卵、黒豚も産出されている。

(図表 I - 11) 農業産出額推移②



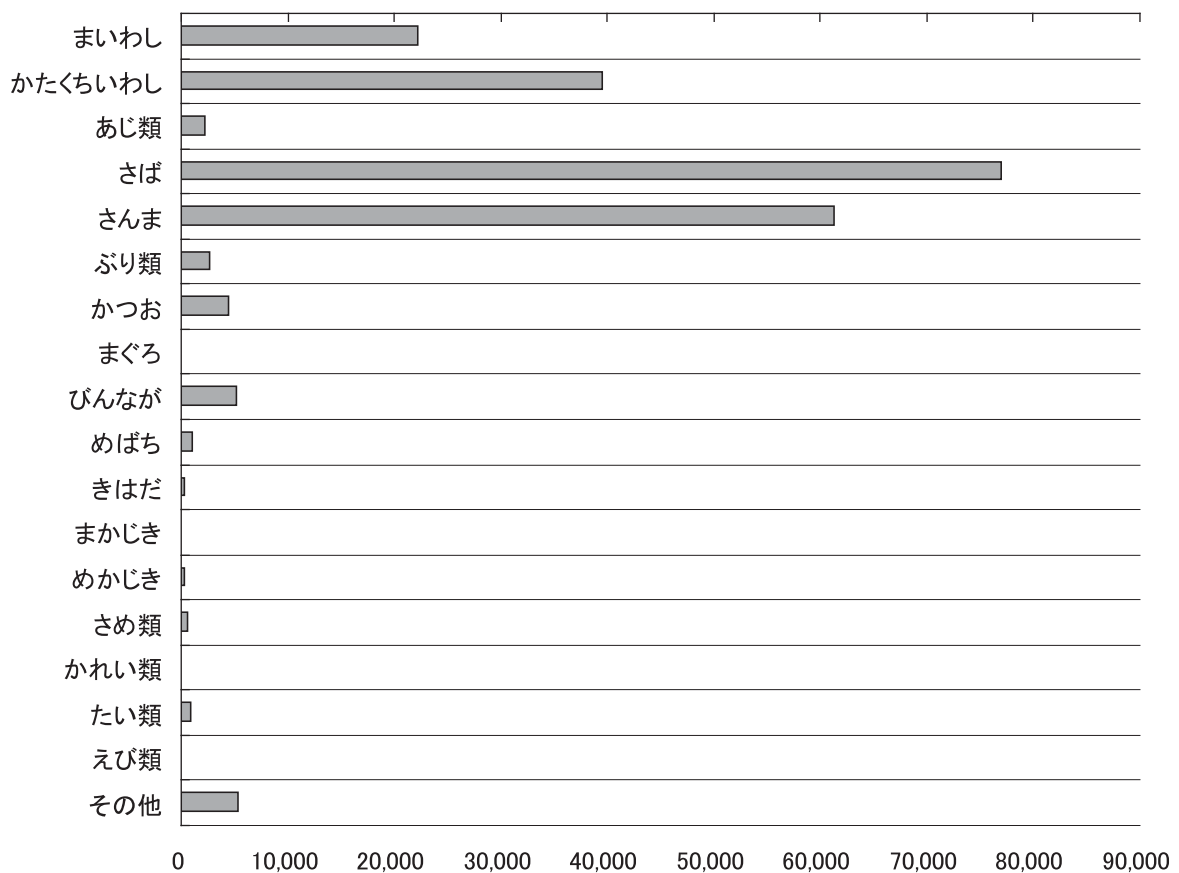
(5) 水産業

銚子漁港は、利用範囲が全国的な漁港のうち、水産業の振興に特に重要な港であるとして政令で定められた全国に13港ある特定第3種漁港のひとつで全国有数の漁港である。

水揚高は年によって変動があるものの、09年では水揚量が223,739tで全国1位、水揚金額は23,371百万円と全国6位となっている。

銚子漁港の漁獲量で主力なのは、かたくちいわし・まいわし、さば、さんま、するめいかとなっている。

(図表 I -12) 銚子港主要魚種別水揚数量 (t)



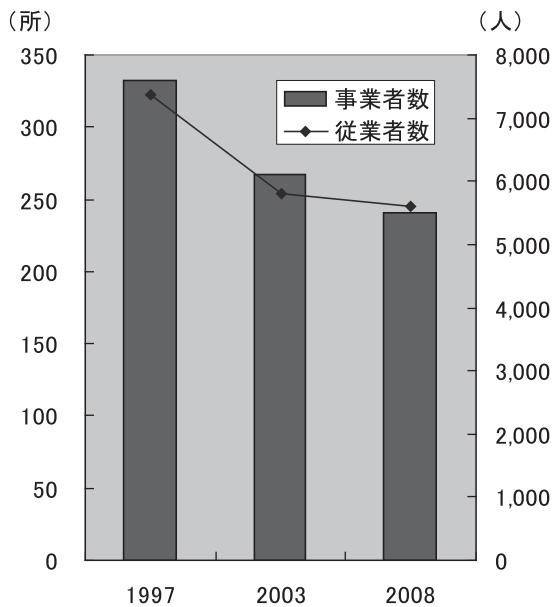
また、銚子のキンメダイ（金目鯛）は脂の乗りが良く、「銚子つりきんめ」としてブランド化されている（千葉ブランド水産物）。次いで「銚子マグロ」「銚子沖サバ」のブランド化も目指している。



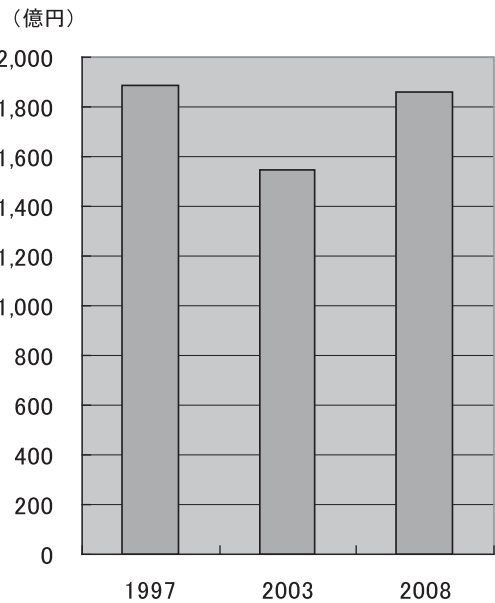
(6) 製造業・商業

製造業（従業者4人以上の事業所）の事業所数・従業者数は年々減少傾向にあり、08年の事業所数は241先（約10%減）、従業者数は5,590人（約3.5%減）となっている。08年の製造品出荷額等は約1,860億円であり、03年との比較では約20%増加しているものの、11年前の97年に比べ出荷額はやや減少している。

(図表 I -13) 事業者数・従業者数推移



(図表 I -14) 製造品出荷額推移

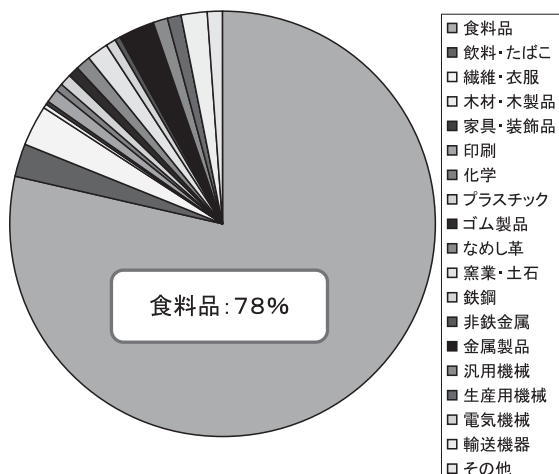


製造業の産業別従業員数、出荷額等とも構成比を見ると、食料品製造業が圧倒的に多くなっている。

食料品製造業のうち、大きなウェイトを占めるとみられるのは、大企業が立地している醤油製造業である。次いで地場産業である水産加工品製造業（缶詰製品製造業など）が占めていると思われる。

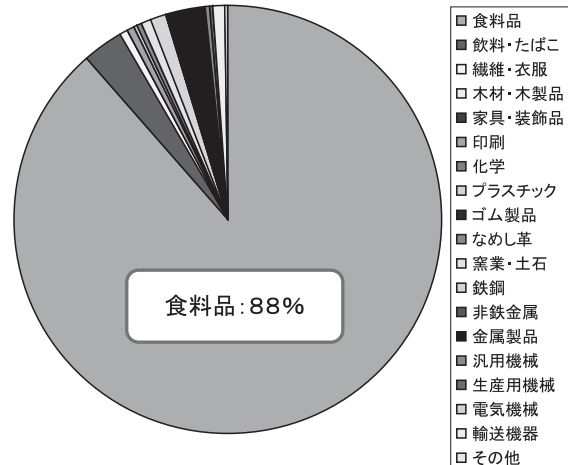
(図表 I -15) 製造業従業者構成比

(08年従業者4名以上の事業所)



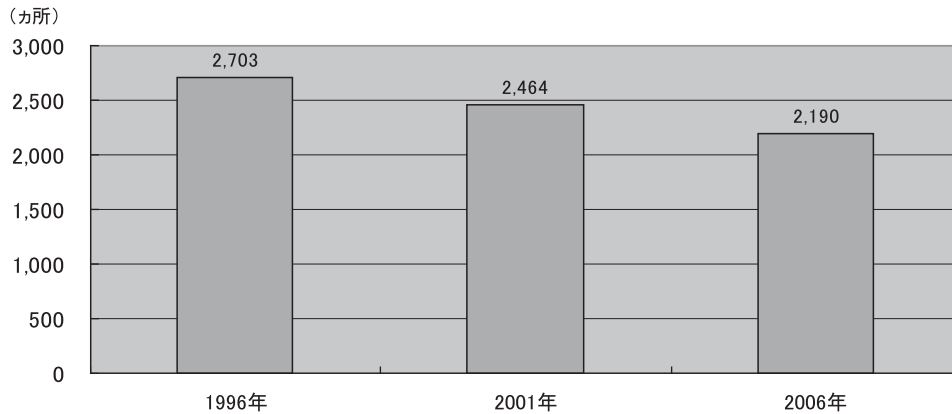
(図表 I -16) 製造品出荷額等の産業別構成比

(08年従業者4名以上の事業所)



銚子市内の商店街としては、銚子駅前に「銚子駅前商店街」と飯沼観音や漁港近くの「銚子銀座商店街」がある。この周辺が中心市街地であり、以前は市民の買い物を支えてきたが、近年では百貨店の閉店などもあって空き店舗や空き地が見られる。

(図表 I -17) 卸売・小売業（飲食業）事業所数推移

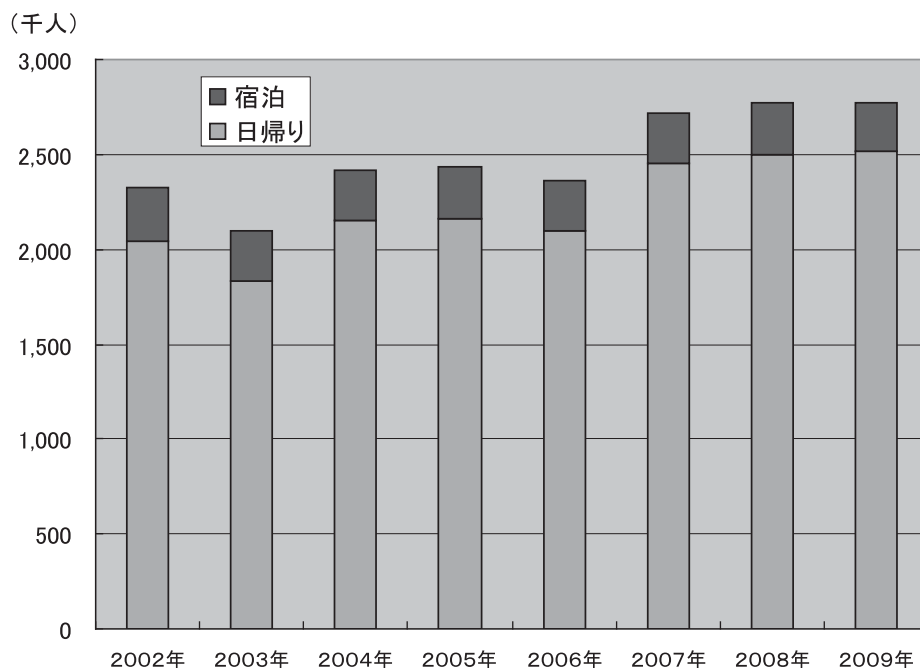


一方で、10年3月、三崎町にイオン銚子ショッピングセンターが開業した。さまざまなイベントを実施しており、市内はもちろん、市外からも集客し、買い物目的以外の来店客もいると思われる。

(7) 観光

銚子市の年間観光客数は近年増加傾向にあり、09年では277万人となっている。うち宿泊客数は25万人と、ほとんどの観光客は日帰りである。

(図表 I -18) 銚子市の観光客数推移

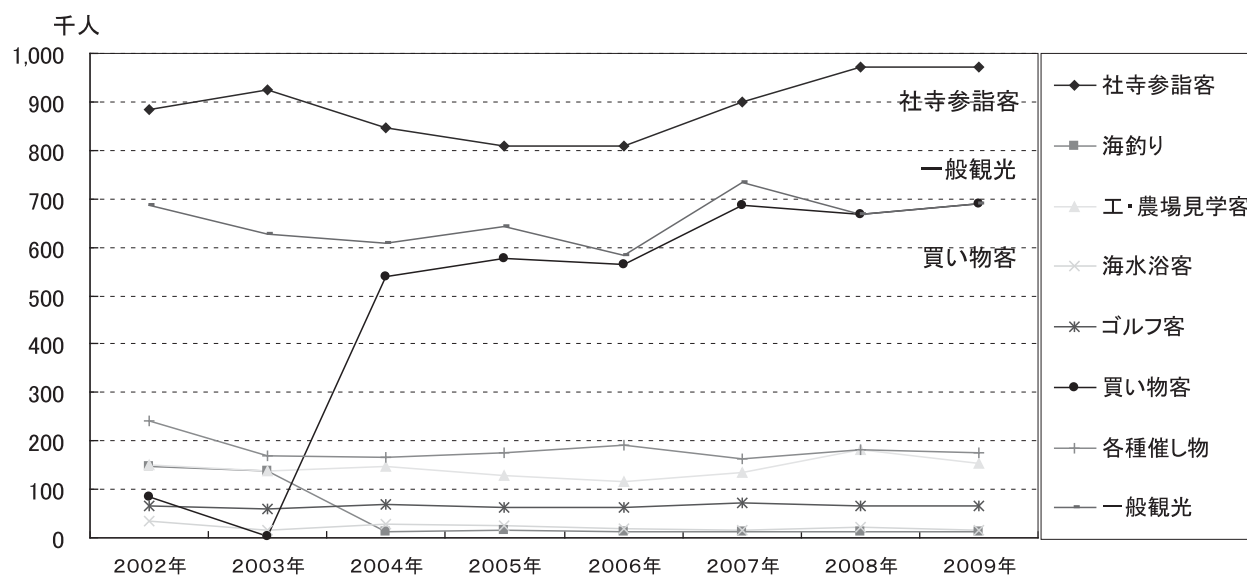


目的別の観光客数は、社寺参詣目的が約 100 万人と多く、買い物目的が約 70 万人、工・農場見学目的が約 15 万人となっている。これらは全体的に増加傾向にある。

また、市内には海水浴場やマリナー、イルカやクジラがみられるイルカウォッチングもあり、海を目的の観光客も見られる。

一方、一般観光に分類される銚子ポートタワー、地球の丸く見える丘展望館に合計 25 万人程度立ち寄っているが、5 年前と比べて 10%以上減少している。

(図表 I -19) 目的別観光客数推移



イベントもいくつか開催されているが、集客力があるのは 8 月の銚子みなと祭りで 85,000 人、次いで 7 月のきんめだい祭りの 30,000 人である。

(8) 新しい取組み

現在、銚子市では様々な取組みが進行中であり、銚子市の観光活性化に向けて、連携もしくは協力関係の構築を検討する必要がある。

① 銚子漁港市場てうし横丁 (仮称)

本事業は、ふるさと財団 (財団法人地域総合整備財団) の助成事業となる「まちなか再生総合プロデュース事業」の核となる中心市街地再開発計画である。

取組みについては、銚子市からの業務委託契約先となっている事業者が、閉店した商業施設跡地の土地所有者の同意を得た上で策定した、銚子駅前商業施設の再開発計画により進められている。

「地元住民の利便性の向上」「地場産業 (漁業、農業、商業) の活性化」「交流人口の増加」を基本コンセプトに計画を策定、土地所有者が施設を建設して新たに設立する新会社が建物を賃借して運営する予定である。

②わくわく門前プロジェクト

銚子うめえもん研究会が、わくわくするような交わりを生み出す界限「わくわくする門前界限」を作り出すことを目的に、「銚子まちづくり会社」を設立して09年11月に取組みを開始したプロジェクトである。

プロジェクトが12年3月末までの2年間限定であるため、その後も事業を引き継ぎ地域再生のリーダーとなる人材を育成する「門前塾」を設立している。

また、わくわく門前プロジェクトは食に関する商品開発を行っている「銚子うめえもん研究会」のメンバーによる取組みであることから、そのノウハウを生かし、銚子観音門前町の商店街の空き店舗を活用して、2年間で飲食店4店舗の起業を計画している。

まずは、銚子銀座商店街に海鮮どんぶり屋をオープンする予定である。

③銚子ジオパーク構想

銚子市には犬吠埼や屏風ヶ浦など、全国に誇れる地質遺産がたくさんある。それらを体験できる環境整備と、日本ジオパーク正会員への登録を目的とした地元住民の会「銚子ジオパーク推進市民の会」が11年2月14日に発足した。

銚子市ではすでに千葉科学大学の教員や学生が案内ツアーを実施しており、日本ジオパークネットワーク準会員登録も完了している。市民レベルの組織ができたことでジオパーク登録へ確実に進んでいる。

市民の会では、銚子の地形、地質についての勉強会を開き、案内看板の設置や保全活動、ウェブサイトなどで情報発信をしていくこととしている。特に、認定に不可欠なジオツアー（ジオパークの案内）の継続的な実施を行える体制づくりが大きな目的で、地元の観光ボランティアや学生団体と連携したガイド養成に期待したい。



④ 銚子セレクト市場

銚子中心市街地活性化研究会において、自ら地域ブランドを構築して活性化を図る「地域ブランディング」が基礎となった“まちづくり”の施策として07年にスタートする。

銚子市周辺にある良いもの、誇れるもの、銚子のイメージに合う「銚子の逸品」を探し出し、広く外部に紹介することを目的としている。

「銚子の逸品」については、消費者側から客観的に商品や料理を見て選定すること、また、商品紹介は一連のストーリーとして物語風に作り上げることを前提条件としている。

城西国際大学の協力により「銚子セレクト」ホームページを立ち上げ「銚子の逸品」の紹介活動を開始する。

その後、銚子市内にあるショッピングセンターのイベントとして「銚子の逸品」の即売会実施、リアル店舗での直接販売の経験を経て、09年11月銚子駅前に銚子の逸品を集めた「銚子セレクト市場」をオープンしている。



⑤ 銚子漁港第一魚市場大規模改修

特定第3種漁港等の拠点漁港での、高度衛生管理型荷捌所等における衛生管理手法の改善、新たに取り組む漁港の生産者側の意識向上及び衛生管理情報の発信等漁港の高度衛生管理の取組促進を目的とした、水産庁の「高度衛生管理対策費補助金」による改修事業である。

鹿児島県枕崎漁港と長崎県長崎漁港の2港に続いて、銚子漁港で実施する計画となっている。

実現した場合、市場見学の観光客や直売所での販売など観光効果も十分に期待できる。